

## 〈患者を生きる：1857〉術後20年、再び症状



5年ほど前、豪州に住む次男を姉と訪ねた(中央)  
＝大貫さん提供

### ■血管の病気 下肢静脈瘤：2

茨城県常総市で豆腐工場に勤める大貫ミサ子さん(64)は、20年ほど前に下肢静脈瘤(りゅう)と診断され、原因となっていた左右の静脈の一部を引き抜くストリッピング手術をした。だが、年を取るにつれて、再び足にだるさやかゆみが出るようになった。

3年前の1月、家から歩いて20分ぐらいの場所に慈恵医大病院外科で講師を務めていた鈴木且麿(すずき・かつまる)さん(51)が「桜橋クリニック」を開業した。

友人から評判がいいと聞き、試しに受診してみた。「冷え性で、しもやけが辛い。足もだるい。便秘も頑固で困る」と体中の悩みを訴えた。ふくらはぎに「ボコボコ」も出ていたが、鈴木さんは「まず血行をよくしましょう」と薬を処方した。しもやけは、すぐ治った。

「もしかしたら、この先生は足も治してくれるかもしれない」。期待が膨らんだ。

昨年7月、テレビ番組で下肢静脈瘤のレーザー治療を取り上げた番組を偶然目にした。1月に公的医療保険で認められたばかりの治療で、数十分で終わり、日帰りも可能だという。「これだ」と思い、次の受診時に、鈴木さんに「レーザー治療を受けてみたい」と伝えた。

鈴木さんは、大学の後輩がいる銀座七丁目クリニック(東京都)の存在が頭に浮かんだ。ただ一つ、気がかりがあった。一度、原因となる血管を抜き去る手術を受けているのに、さらにレーザー治療も受けられるのだろうかと思った。

後輩の金子健二郎(かねこ・けんじろう)さん(35)は、手術した部位や足のこぶの位置を確認するために、「とにかく一度みせてほしい」と予約を勧めた。

---

9月、大貫さんは金子さんのもとを訪れた。クリニックは銀座の目抜き通りのビルにある。「治療がなければ来ることはないわね」。街や道行く人の変容に驚きながら、約40年ぶりに銀座を歩いた。

大貫さんには、両足が「だるい、つる、かゆい」という下肢静脈瘤の3大症状があった。超音波検査で静脈の弁の動きや血流を調べたところ、かつて手術した太ももの静脈ではなく、ひざ下の後ろの静脈が、原因になっていることがわかった。

「レーザーの治療が可能です。予約を入れましょう」

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright ©2012 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.